

参加各位

「馬場小室山遺跡フォーラム」第99回ワークショップ

【復興の原動力！パブリック・アーケオロジー2019～2021】

馬場小室山遺跡とまちづくり環境の「かかわる」から、「山田湾文化」の「つながる」パブリック・アーケオロジーへ

＜馬場小室山遺跡の「見沼文化」と「山田湾文化」の比較考古学への新展開—地域文化と広域連動メカニズムの解明—＞

知識・経験・思考・領域等にみられる現代思想からの証拠に基づく知的解放を目指して活動します！

新展開1 (ムロ16) までは以前のレジュメ参照	「ムロさま」の「限界領域」打破 (墓場の公共性にみる墓式と葬式の真相解明)	馬場小室山遺跡「第51号土壇」から展望する縄文時代の葬墓式と「土器社会論」—「ムロさま」の「累積型改新土坑墓」と「積葬墓」から探る「追埋設型土器棺集積墓」への途— (ムロ17 予告)「亀ヶ岡文化」の北縁地域における「逆位大形壺」の風習【『利根川』41】
新展開2 (オム9) までは以前のレジュメ参照	「オムちゃん」と「ムロさま」との「限界知識」打破	土偶と土面／顔面付土版／人面文土器等の関係、そして容器形土偶／顔壺へ (オム10 予告)千歳市ママチ遺跡の土面 (オム11 予告)「燭燭信仰」は「ムロさま」から容器形土偶や顔壺の土坑墓へ
新展開3 (シオ1)～ (シオ5) は以前のレジュメ参照	「シオ(塩)もん」の「限界経験」打破 縄文時代の製塩土器は「採鹹・せんごう土器」が真相！ 固形塩の物流ではなく、「大形魚塩蔵品」・「汽水系塩(海水)煮」に留まらず、濃縮海水を内陸で希釈する「淡水魚(含む特産ウナギ)塩(海水)煮」の普及か？	「製塩土器」の確立から製塩遺跡の操業へ、爆発的普及の晩期社会と「定住制」の定着 (シオ6)三陸北部における「製塩土器」の年代と系統(1)久慈市大芦Ⅰ遺跡の長胴深鉢形態と僅かな出土点数に注目した「採鹹・せんごう土器」の提唱 (シオ7)六十軒遺跡の「製塩土器」二者(古鬼怒湾ケズリ系列VS無文ナデ系列)の意義【『利根川』40】 (シオ8)古鬼怒湾で後期中葉から大量出土の粗製土器とウナギのブツ切り「塩(海水)煮」／「採鹹・せんごう土器」の定着に果たす古鬼怒湾ウナギ「塩(海水)煮」に注目！ (シオ9)シカやサルが舐めていた「縄文山塩」の発見と「山塩煮」の縄文鍋 (シオ10)「微小貝類から想定される「葦灰」製塩の可能性」？アママは「藻灰」×「草灰」○ (シオ11)「製塩土器」に観る「大宮台地系列」(馬場小室山)、「武蔵野台地系列」(正網・下布田) (シオ12)古鬼怒湾の「魚食・塩(海水)煮文化」と加曾利貝塚の「貝食・塩(海水)煮文化」 (シオ13)「補注式灰煮沸法」は現代人のおとぎ話か？「製塩土器」の膨大な個体数と爆発的普及に見合う「アママ灰」製作は煮沸によるせんごう過程と二度手間では非効率！ (シオ14 予告)広畑貝塚の「製塩土器」に付着した微小巻貝の観察
新展開4	「ツナがる」の「限界思考」打破 馬場小室山遺跡の「見沼文化」と「山田湾まるごとスクール」の「山田湾文化」の考古データをエビデンスとし、「ツナがる」をキーワードに新たな比較考古学の推進	「見沼文化」は「撚糸文土器」に地域文化が確立し、「条痕文土器」の地点貝塚形成は列島における「縄文海進」による海洋資源開発の顕在化にある。「見沼文化」と「山田湾文化」がいつ・どのように「ツナがる」か、縦横に現象を見出し、背景にあるメカニズムの解明に挑戦しよう！ (ツナ1)土器の施文原体として九州から北海道まで「ツナがる」貝殻を使用する風習とは？ (ツナ2)仮称「八雲式」の制定と大柄鋸歯文の来歴と組成は前後にどう「ツナがる」か？ (ツナ3)縄文時代早期とは「自然環境としての日本列島を形成し、海洋適応としての貝塚形成の風習が九州から北海道まで「ツナがる」時代」と概念化 (ツナ4)「見沼文化」に集中する「撚糸文土器」とその直後に観られる「押型文土器」の北漸 (ツナ5)「縄文早期／条痕文海進」と「縄文前期／羽状縄文再海進」、そして「繊維土器」の広域展開 (ツナ6)「大洞A'式」直後の三陸地方には仮称「続A'式」が展開！ (ツナ7 予告)「大洞A'式」直後の下北方面には仮称「八幡堂式」が展開！ (ツナ8 予告)「砂沢式」に並行する北上川流域の土器群と山田湾

1.【地域間の比較考古学とパブリック・アーケオロジーの底力】：自然の恵みと基層文化を比較し相対化しましょう！

＜＜ パブリック・アーケオロジーから企図する縄文文化と弥生社会の比較考古学 2019 ～2021＞＞

- ・馬場小室山遺跡を形成する「縄文文化とは何か？」、そして馬場小室山遺跡の次に形成される環濠集落の「弥生社会とは如何にあったのか？」というパブリック・アーケオロジーからの必然の問いに対し、**権威や通説には捉われない坪井正五郎の精神**に則り、**検証可能なエビデンスから立ち上げる接近法に学ぶ構え**を徹底します。
- ・これには「**山田湾まるごとスクール**」で進めてきた**パブリック・アーケオロジーの実践**が有効に思えます。未経験のフィールドに立ち、自然が破壊された都会での虚像や常識を払拭し、**未経験の環境や自然に寄り添う生活を学ぶ**ことにより改めて地域研究の本質へと接近するならば、これまでの**考古データの解釈を抜本的に見直す契機**となり、また高次のトレーニングともなり、**権威や通説とは異なる新たな視点の獲得と展開**が期待できます。
- ・列島は「ツナがる」！ をキーワードに、馬場小室山遺跡の「**見沼文化**」と「**山田湾文化**」の考古データをエビデンスとして**新たな比較考古学**を立ち上げ、「**交流**」をテーマとした**研究展開**を図りたいと思います。

1-1.【古鬼怒湾湾口部のフィールドワーク】：鴨志田隼司さんの成果報告会

(1)余山貝塚と栗島台遺跡の訪問(10月23日(水)のPM)

- ・**余山貝塚**はかなり荒廃しており、土器や貝殻が掘り起こされて土手状に散乱している状態でした。この遺跡の範囲内で軽石を表採しました。
- ・**栗島台遺跡**はキャベツの植え付け中で、遺跡の痕跡もないように耕作されておりました。遺跡は遠望したのみです。
- ・夕刻、暗くなる前に、**波崎の荒波遺跡(標高約 5.0m)**と**吉沼貝塚(標高約 6.8m)**の地形を確認しました。吉沼貝塚では大形のハマグリを表採できました。

(2)犬吠埼灯台から屏風ヶ浦まで地形・地質の巡検(10月24日(木))

- ・日本山岳会科学委員会の研修会として犬吠埼灯台から屏風ヶ浦まで地形・地質の巡検で歩きました。夕方に太田地区の旅館へ向かう途中で、**一丁目貝塚**の土器出土地点の現状を見てきました。その日の夜に、鈴木正彦氏が 1968 年3月に表採した、「荒波遺跡」、利根川河口に近い荒波集落の標高 4.5～5.0mのセンリョウ畑、出土の縄紋土器片と思われる遺物の熟覧と写真撮影を行いました。

(3)神栖市波崎地区荒波(あらく)遺跡の探索(10月25日(金)AM)

- ・午前中に「荒波遺跡」へ単独で訪れましたが、縄紋式土器を出土した地点はアルミフェンスで厳重に囲われていて、様子がうかがえませんでした。さすがに、風と雨が激しくなってきたので、這々の体で、現地を撤収してきました。
- ・荒波遺跡の上流7kmの利根川沿いの内陸部に入った地点、川尻集落の「**一丁目貝塚(川尻貝塚)** 標高約 6.1m」では称名寺 2、堀之内 1・2、加曽利 B2、安行 1 式が出土しています。

(4)成果の検討と展望

- ・鴨志田隼司さんの別紙参照。

1-2.【手賀沼をのぞむ縄文時代前期初頭の集落】：柏市(旧沼南町)石揚遺跡の「花積下層式」集落の意義！

(1)手賀沼をのぞむ立地環境から何が分かるか？

- ・石揚遺跡は手賀沼の南岸に位置し、標高21m前後に立地します。周辺は貝塚が形成され、早期貝塚の手賀船戸貝塚(南岸)、早・前期貝塚の柴崎遺跡(北岸台地の利根川谷側・我孫子市)、前期の岡発戸新田貝塚(北岸)、中期貝塚の布瀬貝塚(南岸)、後晩期の手賀船戸貝塚(南岸)、下ヶ戸貝塚(北岸台地の利根川谷側・我孫子市)が知られていますので、古鬼怒湾の貝塚地帯の一角を占める地域環境です。
- ・しかし、石揚遺跡は早期後葉から集落が形成されますが、貝塚の形成はブロックのみです。これは石揚遺跡までは海進の直接の恩恵に被られない環境のようです。「縄文海進」のピークは早期後葉ですから、前期初頭「花積下層式」の集落には貝塚形成が痕跡的ですので、このことから手賀川の谷の深さは利根川程の深さではないことが分かります。従って、石揚遺跡の手賀沼南岸は往時のラグーン地帯とは異なる水上交通環境にあったと考えられます。

(2)集落を構成する施設から何が分かるか？

- ・縄文時代早期後葉「鶴ヶ島台式」とその前後には竪穴住居址4軒・炉穴39基・土坑17基・陥穴22基を検出し、縄文時代前期初頭「花積下層式」では竪穴住居址20軒・土坑11基を検出しています。竪穴住居址・炉穴・土坑という生活施設の配置関係は安井健一さんに所見を伺うとして、早期後葉の陥穴22基が前期初頭には消えてしまうとの現象については大いに関心をひきます。
- ・早期後葉における居住地区への陥穴設営は狩猟活動を兼ねた集落の安全対策と考えるならば、立地や自然環境に大きな変化が観られない前期初頭には安全対策施設の必要性が無くなる現象を意味するでしょう。恐らく、ヒトの伴侶としてのイヌの存在が大きな役割を担ったと考えられます。

(3)石揚遺跡の「花積下層式」とその集落構成：「自然集落」か「計画集落」か、大いに検討しましょう！

・発掘調査から報告書作成までを担当した安井健一さんに具体的な所見を伺います。

【参考文献】

安井健一他（1994）『沼南町石揚遺跡』、(財)千葉県文化財センター

安井健一（1995）「沼南町石揚遺跡の花積下層式土器」『研究紀要』16、(財)千葉県文化財センター

安井健一（2000）「134 石揚遺跡」『千葉県の歴史 資料編 考古 I（旧石器・縄文時代）』、千葉県

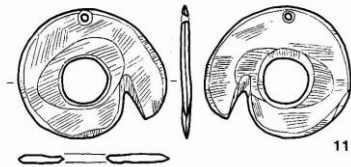
1-3.【馬場小室山遺跡の縄文時代中期集落】：大宮台地南部における縄文時代中期の「土器型式」と山田湾

・馬場小室山遺跡における縄文時代集落としての施設は、現時点では早期末葉「八雲式」の土坑内貝塚から開始しますが、中期中葉から集落の発達を見せています。しかしながら、大宮台地南部の中期集落は管見ではあまり重要視されていないように見受けられます。

現在、陸中・山田湾でも川端弘行コレクションや浜川目沢田 I 遺跡等を資料として縄文時代中期の遺跡動態研究を進めようとしていますので、この機会に馬場小室山遺跡を中心とした大宮台地南部の中期集落について学びを深めたいと思います。

・そこで今回は大宮台地の東縁が「二軒屋式」文化圏であることから、下野から東葛地方にかけての中期研究を齋藤弘道さんから紹介して頂きます。

【蛇足】馬場小室山遺跡第 32 次調査では「の」字状石製品が出土しています。恐らく年代は中期初頭になりますが、馬場小室山遺跡には当該時期の集落は未明ですので、隣接する松木遺跡の中期初頭集落の土坑墓が離れた馬場小室山遺跡地内に設営された可能性があります。



1-4.【「山田湾まるごとスクール」活動を支える基盤研究の推進】：山田湾周辺に形成される遺跡の意義

(1)川端弘行コレクションの整理・活用の推進

・これまで整理してきた大量の土器片については概要が把握できました。今後は山田史談会とのパブリック・アーケオロジーと時間的に並行して、年代別系統別に土器の分類作業にも集中する体制とします。

・山田史談会とのパブリック・アーケオロジーは未整理の石器をテーマとして形態別に分類して機能を検討します。

(2)山田湾における製鉄年代を考えるための基礎知識

・北関東の製鉄遺跡の研究動向を齋藤弘道さんから紹介頂き、参考事例とします。

(3)注目すべき宮古市千鷲IV遺跡に学ぶ

・山田外湾（山田湾とは内湾部を差し、外湾部は山田外湾として区別）に立地する千鷲IV遺跡は齋藤瑞穂さんが注目し、年代の変遷から見ても長期に亘り集落を形成しており、明らかに山田湾と山田外湾全体における拠点集落です。

今回の第8回「山田湾丸ごとスクール」では千鷲IV遺跡に立ち、弥生時代の人々は何をして暮らしていたのか、その生業の復元の手掛かりを得たいと思います。

2.【環境変動と文化変容】：海進／海退の環境変動と文化変容、地震・津波・台風・洪水の「防災・減災考古学」など

2-1.【列島における弥生時代の東西】：弥生時代の環境変動と拠点集落への影響

(1)西日本の地形的特徴と灌漑農業集落の優位性

・北部九州から近畿地方までは緯度の南北差による冷涼化の影響を受けにくいように略同緯度で東西に長いです。しかも桜前線やミカンの収穫時期に象徴されるように東日本よりも明らかに温暖傾向の地方が多いです。

→ 冷害の心配が少なく、奈良県唐古遺跡等長期的な集落の安定が維持できます！

→ 生産力の向上と米の蓄積による拠点集落の規模拡大が可能です！

(2)東日本の地形的特徴と保存食料の優位性

・北海道から関東地方までは南北に連なり、西日本に比べて高緯度に所在し、冷害の影響を受けやすく、しかも地域的連鎖として南北に同期する傾向が見られます。

→ 東京都久ヶ原遺跡も後期のみの拠点集落で、長期的に安定する灌漑農業集落の形成に不向きです！

→ 他方で低水温に代表されるサケ・マスの遡河川地域の集落では保存食の確保に優位です！

・東北地方の北部でも日本海側は暖流の影響で灌漑農業が可能、他方で太平洋側はヤマセの影響で稲作には不向きなようです！

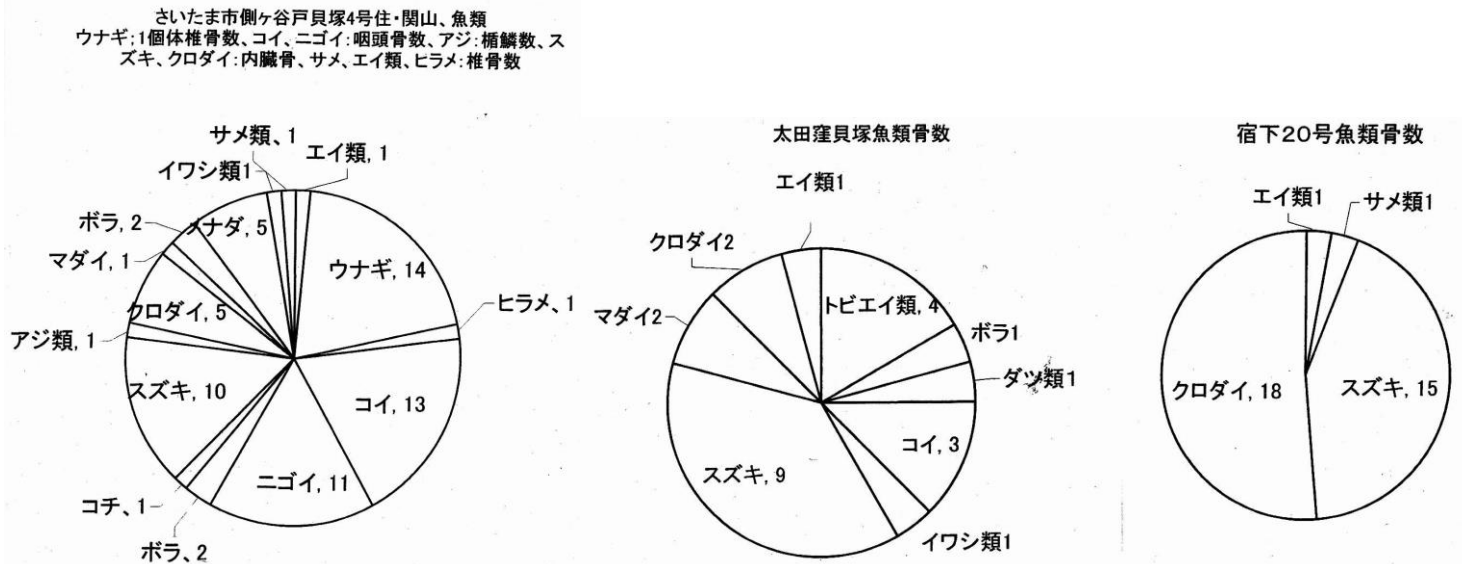
2-2. 【「防災・減災考古学」】： 山田湾周辺における古代の地震津波の痕跡と復興について

- ・2019年11月16日、新潟大学にて「第7回 前近代歴史地震史料研究会」が開催され、齋藤瑞穂さんが縄文時代中期の地震津波について「縄文三陸地震津波再論—山田湾の復興を考える手掛かりとして—」と題した発表しました。具体的な内容は次回に紹介します。

3. 【考古学から見たヒトと動物とのかかわり】： ヒトと動物たちはともに生きる仲間、貝塚とはヒトと動物たちが生きた証の場！

3-1. 【荒川流域や大宮台地の縄文時代前期貝塚】： さいたま市の前期貝塚では骨角製漁労具の出土が僅少！

- ・さいたま市側ヶ谷戸貝塚の魚類遺体(金子浩昌氏の発表資料)から考えます。



- ・別途、幸手市郷土資料館で開催中の「奥東京湾貝塚展」の見学を平日に予定しますが、**東葛地方の前期貝塚**では**大形の鹿角製釣針**が検出しており、湾江漁労文化に関わる専門性ネットワークに違いが大きいように見えます。

3-2. 【古鬼怒湾のマダイ漁】： サケにサケ石、マダイにはマダイ岩偶！

- ・茨城県竹来根田貝塚の魚形岩偶はマダイをモデルと推定する所見が金子浩昌氏により発表されています。身近にマダイの姿を見る機会があり、象徴化したようです。鈴木公男さんと小宮猛さんは銚子沖でのマダイ漁を想定していますが、「製塩土器」成立過程に漁場の縮小と保存の必要性を加味すると古鬼怒湾への回遊を考えることになります。



茨城県柏市根田貝塚出土の魚形岩偶(實大)
Fischidole aus Sandstein von der Muschelhaufengruppe Takaku-Neda.

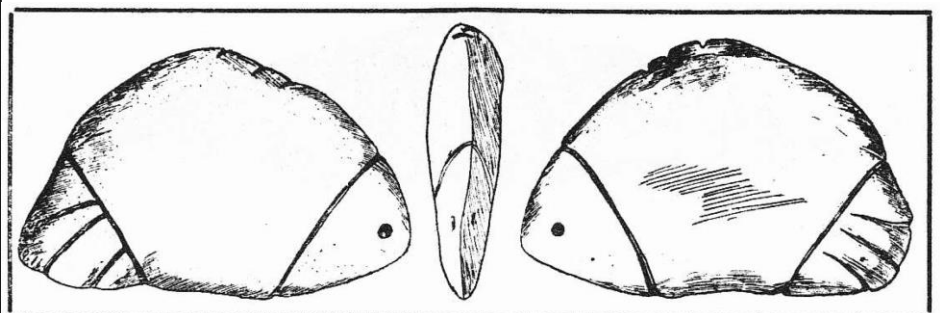


Fig. 6 根田貝塚出土の魚形岩偶

4.【「馬場小室山遺跡研究会」15年の節目】：高齢化に伴い、今後はワークショップ形式からフォーラム形式へ転換！

4-1.「馬場小室山遺跡の学び舎」への名称改訂：世話人の高齢化に伴う負担の軽減希望！

- ・馬場小室山遺跡研究会では「馬場小室山遺跡フォーラム」ワークショップの名称を第101回から改めます。
「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」のバックボーンとなる日常的な研究姿勢が継承され、「山田湾まるごとスクール」の学びも深まることを願い、新たな名称を「馬場小室山遺跡の学び舎」第101回フォーラムとします。
併せて「レジュメ」は「通信」に名称変更し、「馬場小室山遺跡の学び舎」第101回フォーラム通信とします。

4-2.【ご参考】記念すべき第1回ワークショップの案内状

From: 鈴木正博

Sent: Thursday, December 23, 2004 7:32 PM

To: iizuka.kuniaki@gol.com ; nokenminami@ma.0038.net ; わらび ゆみ

Cc: pop.h2.dion.ne.jp ; Takayanagi, Toshiya ; HGA02710@nifty.ne.jp ; t.tamiya@ab.wakwak.com ; miya38_syokupc@yahoo.co.jp ; sugitas@neji.com

Subject: 【馬場小室山遺跡研究会第1回ワークショップの件】

各位

馬場小室山遺跡の重要性を多くの方々に知っていただくため、そしてその重要性をより客観化する努力を行うため、「馬場小室山遺跡研究会」を立ち上げました。

既にさいたま市教育委員会文化財保護課に対しては、学術ボランティアによる支援の一環として、10/7に立ち上げの予告を済ませておりました(『千葉市の遺跡を歩く会』HP参照)ので、少々遅きにきしていますが、何とか年内にその一歩を踏み出せましたのは、ご支援頂いている皆様に背中を押されたからに他なりません。

ここに深甚なる謝意を表すると共に、その一歩である第1回ワークショップを下記の通り実施しますので、ご参集頂ければ幸いです。

ー記ー

1. 日時:2004年12月26日(日) 13:30~16:00

2. 集合場所:JR東浦和駅 改札口(13:00集合)

★さわらびYさんが適宜誘導予定。

はぐれた場合は馬場小室山遺跡でお会いしましょう！

★★屋外での活動時間が多くなりますので厚着の準備をお願いします。

3. ワークショップの内容

★テーマは硬く書いていますが、内容はソフト、かつ最先端を目指します。

(0)はじめにー馬場小室山遺跡と向き合ってー

2003年の競売時点から保存運動を行ってこられた飯塚邦明さんのお話を伺います。

(1)馬場小室山遺跡の現状視察(1時間程度)

【目的】踏査により地形を把握すると共に、「盛土」の供給場所を理解し、加えて「盛土」の残存状態から往時の状況を復元する。

(2)馬場小室山遺跡の「調査未了」地区から救済・保護した遺物の吟味

【目的】「調査未了」の実態を理解すると共に、「土器型式」について知見を深める。

【縄紋式中期から堀之内2式】:<解説> 斉藤 弘道さん

【加曾利B式から安行2式】 :<解説> 鈴木 正博さん

【安行3a, b, c, d式】 :<解説> 鈴木 加津子さん

(3)縄文時代の研究最前線

【目的】馬場小室山遺跡理解のために最先端の知識の提供

①縄文時代中期という時代(『翡翠展』を意識して):<解説> 斉藤 弘道さん

★参考資料は富山県の企画展カラーパンフレット配布予定

②「盛土遺構」研究最前線 :<解説> 鈴木 正博さん

★貝塚研究から観た「盛土遺構」

以 上

4-3. 【ご参考】15年目に当たる節目の因縁について

- ・2019年12月26日：大田 堯さん1周忌
- ・2019年12月26日：馬場小室山遺跡研究会のワークショップ活動15周年

5. 【その他連絡・情報交換など】：今後の予定や自由な意見・情報交換、そしてワイン・アーケオロジー

5-1. ワークショップ関連予定：「忘年会」と「新年会」、「山田湾まるごとスクール会」、「お花見会」の日程を確保下さい！

- ・12/1(日)：飯塚邦明ジャズピアノコンサート(於:さいたま市立文化センター) 16:30開場

ワークショップのご案内、ありがとうございます。

飯塚邦明ジャズピアノコンサートも組み込んでいただき、いつもありがとうございます。

今回は第2部で、井山まりさんたちに踊っていただいた「貝輪のコンチェルト」を演奏いたします。

「小室山のテーマ」も演奏いたします。当日のご来場を、お待ちしております。

飯塚邦明・一恵

- ・12/28(土)：第100回ワークショップ:「忘年会」/縄文時代中期を中心に！
- ・1/19(日)：「馬場小室山遺跡の学び舎」第101回フォーラム:「新年会」
★縄文時代後期「高井東式」、弥生時代後期から古墳時代初頭の方形周溝墓
- ・3/8(日)：第102回フォーラム:「山田湾まるごとスクール会」(於:パルコ9F市民活動サポートセンター)
- ・3/29(日)：第103回フォーラム:「お花見会」(1:八雲貝塚、19:三崎台遺跡(弥生後期))



5-2. その他

- ・台風19号と「見沼田んぼ」: 芝川氾濫、国道463号線(旧道)冠水等「見沼田んぼ」が水没、見沼の原風景へ！
- ・有志による見学会：真福寺貝塚・泥炭層遺跡の発掘調査見学(12/20までの平日で調整予定)
幸手市郷土資料館の奥東京湾貝塚展見学(真福寺貝塚と同日で調整予定)

以上